令和 7 年度　第 2 回日本遺産「桑都物語」推進協議会　総会 議事録

日時:令和 8 年（2026 年）1 月 23 日（金）10:00～11:30

会場：八王子市役所　全員協議会室

※特記のない限り日本遺産「桑都物語」推進協議会の名称は「協議会」と表記する。

１　開会

【名誉会長】

・ 日頃から日本遺産事業にお力添えいただき感謝する。
・ 2 月から総括評価・継続審査が開始される。皆様とともに結果を出していきたい。
・ 今年 10 月には「桑都の杜」がオープンする。その中で、文化財や日本遺産を紹介する「歴史・郷土ミュージアム」もオープンするため、本市の新たな魅力を発信できることを期待している。
・ 日本遺産の PR や活用について、皆様からぜひご意見をいただきたい。

【会長】

・ 昨年 7 月から会長を務めることとなり、これまでの協議会の取組について引継ぎを受け、日本遺産を活用した八王子の更なる地域の活性化が協議会の目的であると認識している。
・ 事務局主導であれば市役所で推進すれば良いだけの話であるが、皆さんに参画いただいているからには、協議会全体として機能していくためにも、ぜひ連携・協力していただきたい。
・ 日本遺産に認定されたことによって、八王子市民の意識がどう変わったかが重要。特に子どもたち、学校教育にも日本遺産をぜひ取り入れていただきたい。
・ 皆さんからのご意見をいただき、協議会の取組を更に充実させていきたい。

本日の総会の趣旨について、事務局から説明。

【事務局】

・ 例年、第 2 回総会は事業の進捗報告及び次年度の事業計画等について審議を行っているが、2 月から「総括評価・継続審査」が開始することから、文化庁へ提出する申請書の内容について協議会の皆様にお諮りし、議決を経て、申請書を作成し提出する。
・ 次年度の事業計画について審議を諮る第 3 回総会は 3 月 25 日を予定している。
・ なお、議事録については無記名で作成し、文化庁審査結果公表後に公開する。

参考資料として「MADE in HACHIOJI 展示会・マルシェ」(1 月 20 日市長定例記者会見資料)、日本遺産マルシェについて紹介。

２　委員の変更について

事務局から委員の変更について紹介。

総会の成立

出席者数が過半数を超えているため、本会は有効に成立する。

- 出席者数：20 名
- 欠席者：2 名

オブザーバーとして 2 団体が参加

３　議事

第 1 号議案　次期「日本遺産を活用した地域活性化計画」（案）について

資料に関して事務局より説明。

- 日本遺産総括評価・継続審査について
- これまでの取組
- 現行地域活性化計画による KPI 指標の達成状況、評価
- 次期計画のビジョン、取組、ポイント
- 「人材育成システム」について
- 実施体制、など。

【会長】

本件について、質問等あるか。

→質問等なし

それでは、本件に関して委員の皆様から順番にご意見等をいただきたい。

【委員】

- これまでの 6 年間を振り返ると、日本遺産に認定された令和 2 年は新型コロナの流行により、世の中が落ち込んでいた時期であった。その中で一筋の光が日本遺産認定であった。日本遺産認定を受け、構成文化財関係者の皆様は希望を諦めずに頑張ってきた。

・ 高尾山薬王院では、飯縄大権現様が祀られてから 650 年という節目の年を迎え、様々な記念事業を円満に実施できたところである。
・ 八王子車人形や八王子芸妓などでは、若手の活躍が多かったように感じた。八王子芸妓衆の皆様においては、今年 4 月開催予定の「第 4 回八王子をどり」に向けて日々精進されている。
・ これまでは構成文化財関係者が日本遺産のためにそれぞれの文化を大切にしていこうと取り組んできたが、現在は日本遺産のおかげで頑張らせてもらっているという意識に変わっている。
・ 構成文化財関係者同士の連携が強まってきていることも日本遺産の成果である。八王子の由緒ある歴史、日本遺産のおかげで広まってきている。文化、精神的な豊かさが高まっているのではないか。
・ 2 月に節分会、3 月に火渡り祭、大きなイベント控えている。引き続き日本遺産の啓発に取り組んでいきたいと考えている。
・ 「日本遺産総括評価・継続審査」は望むところである（どんとこい）

【代理】

・ 日本遺産は、文化財などの素晴らしさが評価され認定されただけではなく、認定にあたっては、これだけの多くの方が携わって進めていることを知ることができて大変勉強になった。
・ 文化財の保護は重要であるが、10 年・100 年といった継続性の観点からは観光事業化も必要な視点である。
・ 日本遺産を活用した地域活性化に向けてどのように貢献できるか考えていきたい。

【委員】

・ 八王子支社管内では、近距離収入は対前年を上回り増加していることから、動きは見えてきたところ。
・ そのような状況の中で、1 月 22 日から 3 月 22 日まで、JR 東日本×京王×西武 3 社合同イベントとしてデジタルスタンプラリーを開催し、多摩地域流動創造の取組も実施している。
・ また、大学コンソーシアム八王子との連携事業において、八王子を題材とした動画制作・放映したが、学生との意見交換の中で八王子にこれだけの財産があるということを知ることができたという声が多数あった。学生との連携は人材作りにも重要だと感じた。
・ 当社では、八王子（地元）のファンを作ることを目的として事業を実施しているため、引き続き地域の魅力を発信するイベントの開催等により、地域の流動創造につなげていきたいと考えている。

【委員】

・ 日本遺産認定後、日本遺産認定切符の販売から始まり、ポスター掲示・イベント参画など、様々な場面で協力してきた。
・ 八王子最大の観光地である高尾山では、継続的な PR を実施。近年では、デジタル媒体での発信に力を入れており、YouTube、SNS などを活用しながら、高尾山の魅力を発信している。
・ 日本遺産も継続性が大事だと考える、一過性の取組ではなく、継続した取組となるよう、我々も引き続き取り組んでいきたい。

【委員】

・ 先日、大宰府を訪れたが、整備が行き届いており、大変賑わっていたのが印象的であった。日本遺産の認定を外れたとのことであったが、地域間での連携が不足していると、賑わっているだけでは認定継続にはつながらないということを実感した。
・ ケーブルカー利用者数と、高尾山口駅の乗降者数は相関関係にあり、共に前年を上回っていることから、高尾山の登山者数は増えてきている。
・ しかし、来訪者の属性が変わってきており、かつては薬王院の参拝等を目的とした企業・団体が多かったが、近年では若者・学生が多い印象。高尾山は信仰の山ではあるが、レクリエーションの意味合いが強くなってきていると感じている。
・ 商品の売れ行きにも関係しており、若者向けの商品が売れている。日本遺産においても、若者やインバウンドなどターゲットを意識した施策展開をする必要がある。
・ 「日本遺産に関連する商品の売上高」の目標値が 400 万円とのことだが、具体的なイメージがない。今後、詳細を確認させていただきたい。

【監事】

・ 日本遺産・桑都物語といえば、北条氏照が八王子のまちを作り上げ、高尾山、織物のまちのストーリーであるが、八王子まつりや八王子芸妓など、今後も日本遺産推進事業に取り入れていかなくてはならないものは、まだまだたくさんある。
・ 八王子の文化の物語を将来に継続させていくためには、若い人の担い手作りが重要である。
・ 産学官連携、特に「学」の関係者を取り入れていくことが重要。様々な関係者からの意見を聞きながら、日本遺産を継続していけると良い。

【委員】

・ 当財団の活動目的の中に「芸術文化の振興」や「伝統文化の継承」がある。「伝承のたまてばこ」をはじめとした伝統文化事業のほか、八王子まつりの事務局も担っており、構成文化財と関わる機会も多い。

・ 令和 5 年度からは「八王子芸術祭」を開催し、その中で構成文化財も活用している。2 回目となる本年は、中野地区で織物のまちを PR したところである。第 3 回では南大沢地区で開催を予定しており、その地域では八王子まつりに訪れたことがない人も多い。どのように日本遺産を PR していくかが課題である。
・ 観光事業化に関連して、構成文化財である滝山城跡の周遊ルートがあるが、高月城址には都内でも貴重な「高月の田園風景」を一望できる場所がある。ぜひそれも取り入れていただきたい。

【委員】

・ 多摩織が日本遺産の構成文化財となっており、日々宣伝は行っているが、なかなか浸透させることは難しい。日本全国での展示会に参加する機会もあるため、八王子の多摩織を引き続き宣伝していきたい。
・ 若い世代の担い手作りという意見があったが、織物工業組合では小学校への手織り体験をやっている。一人・二人でも担い手が増えてくれることを期待している。
・ 構成文化財である多摩織を含め、八王子織物を盛り上げていきたい。

【委員】

・ 市内 16 店舗において、日本遺産含め八王子の魅力を発信している。
・ 価値創造事業部では、様々な地域と連携しているが、その中の取組の一つとして桜美林大学の「八王子の文化体験特化ツアー」を紹介したい。当大学では、サステナブルウェルビーイング研究室の学生チームが、八王子の文化の魅力を伝えるため、中町の体験プランを、高尾山との連携も含め、事業計画と収益計画をたてながら、しっかりと検討されていたことが印象的であった。
・ 学生は、我々の知らないところで地域の魅力を感じている人も多い。特に八王子には大学も多いため、八王子の魅力を発信するため、商品化の企画などのピッチイベントなどを行っても良いのではないかと考える。

【委員】

・ 歴史は固定されたものではなく、常に更新されていくものである。日本遺産・桑都物語においても、ストーリーの根幹の部分を常に研究していくことで新しい価値を見出すことができる。歴史学の専門家の意見を取り入れていくことが重要。
・ 八王子の魅力は、北条氏照から始まったわけではないため、日本遺産ストーリーだけではなく、全史に目を向けて魅力を発信していく必要がある。
・ 他の委員の意見にもあったが、由木地域は日本遺産の認識が低いと感じている。由木地域には大学も多く立地しているため、学生の活用も視野に入れ、絹の道資料館から絹の道への PR などを通じて、日本遺産の認知度を高めていくための働きかけをしていく必要がある。

【オブザーバー】

・ 桑都テラスの管理・運営を行っている、桑都テラス開業から 3 年が経過し、日本遺産を意識してこれまで取り組んできたところであるが、具体的な数字として効果が出ているかは検証できていないのが現状である。
・ 本日の皆様からの意見を参考に、今後どのような形で桑都テラスを更に活用できるのか、検討していきたい。

【オブザーバー】

・ 昨年度実施した「八王子桑都千景事業」における「創作新内浄瑠璃劇」では、個々の構成文化財などの魅力を集結し、日本遺産・桑都物語が次のステップに進んだことを実感した。
・ 本年度は、協議会からインバウンド事業を受託し、高尾山の文化的な魅力を発信するプロモーション動画を制作し、発信している。発信だけにとどまらず集客につなげていきたい。
・ 地元メディアとして、日本遺産を含めた八王子の魅力を発信していくほか、日本遺産ウォーキングイベントの開催に向けて検討を進めており、若い人たちの取り込みにも検討していきたい。
・ JCOM 株式会社では、昨年 9 月に、文化庁と「日本遺産オフィシャルパートナーシップ」を締結。今後は八王子のみならず、日本遺産の魅力を全国に発信していく。

【オブザーバー】

・ 1 月 20 日に開催した新年議員賀詞交歓会では、株式会社さとゆめの代表取締役を講師に招き、青梅線沿線の地域活性化プロジェクト「沿線まるごとホテル」の事例を報告いただき、大変参考となる話を聞くことができた。
・ 今後も事業者からの地域の様々な取組事例を聞き、地域にフィードバックしていきたい。その講師からは、高尾山から中心市街地への誘客などについて別途ご意見をいただきたいと考えている。
・ 日本遺産に関して、まちにテーマがあるのは非常に良い。商工会議所としても桑都物語を軸にした歴史・文化を活用したまちの活性化に取り組んでいきたい。

【委員】

・ 日本遺産・桑都物語の構成文化財は 30 件あり、認知度の課題として挙がった南大沢地域にも構成文化財が点在しているため、日本遺産を八王子全体の面として発信していきたい。
・ 協議会の皆様、市民の力、学生の力などを結集し、日本遺産の更なる発展に取り組んでいきたいため、引き続き皆様のご協力をいただきたい

【委員】

・ 一昨年から、他地域における複数の日本遺産の取組を見てきたが、本市の取組も他市に引けをとらないと感じており、様々な場面で積極的に取り組んでいると感じている。
・ 総括評価・継続審査においては、認定の継続にとどまらず、重点支援地域や、その先のプレミアムのポテンシャルを秘めているのではないかと考える。一方で、外部の専門家からの意見によると、民間事業の取組については、まだまだ伸びしろがあると伺っている。
・ 皆様と一緒に日本遺産の推進に取り組んでいきたい。

【オブザーバー】

・ 昨年度実施した「八王子桑都千景」の成果を活かし、オリジナルブランドの制作を試行的に進めている。八王子織物では縞模様が得意だったことから、桑都千景の藍色をテーマとしたテキスタイル製品、名刺入れを制作している。
・ 日本遺産はMICE推進事業のエクスカーションツアー等において構成文化財を活用しているほか、産業観光の取組として、オープンファクトリーを毎年実施し、本年度はプレミアムとして上質な体験を提供した。
・ 3月には、小さな国際学会の誘致を予定しており、夜のエクスカーションツアーとして桑都テラスと八王子芸妓を活用。翌日には多摩織のプレミアムな体験を提供予定。

【会長】

・ 様々な視点から日本遺産に関する意見をいただき感謝する。
・ それでは第1号議案について、本日の皆さんからの意見を踏まえ、修正のうえ承認するものとしてよろしいか。
⇒拍手で承認

４　その他

事務局から事務連絡

【事務局】

・ 次回の総会については、3月25日の開催を予定している。場所と時間については、事務局から後日お知らせする。次回総会においては、令和7年度事業の実施報告及び令和8年度の事業計画について審議する予定。

５　閉会

【副会長】

・　総括評価・継続審査について、これまでの取組とこれからの事業計画を合わせて審査されることになるが、協議会の皆様それぞれの立場で八王子を担っていただいていることを本日の総会で実感したため、八王子は認定継続されるものとして期待している。
・　認定が継続した暁には、これまでの地域活性化計画からステージが上がり、より観光事業化などに取り組んでいくことが求められる。これらを実施していくためには、協議会の皆様のそれぞれの立場で協力いただくことがより必要となる。
・　今後も会長のリーダーシップにより、力強く日本遺産を引っ張っていただけるものと認識している。
・　日本遺産の認定を受けているのは東京都で八王子市のみ。その誇りをもって皆様と一緒に進んでいきたいと考えているため、今後 3 年間、支援と協力をお願いしたい。

【副会長】

・　委員の皆様からの様々なご意見、大変感謝する
・　どの事業にもベースとなる基盤が確立していることが大事であり、それを活用していくことが重要。日本遺産においてのベースは、文化財と人材だと認識している。
・　八王子市教育委員会としても、文化財・人材の活用にあたり、これまでの文化財行政としてではなく、保存だけではなく活用、サポーターの養成も必要。
・　日本遺産認知度は、小・中学生に限って言えば 100%。その子らが 10 年度、20 年後の八王子の基盤になっているか、長いスパンで考えていく必要がある。
・　子どもは短期的な消費者ではなく、実践者・プロデューサーとして見ていただき、共に成長していければと考えている。
・　小・中学校との連携事例も増えてきており、学校側の体制も整いつつある。皆様のそれぞれの事業においても、ぜひ小・中学生を巻き込んで、取り組んでいただけると幸いである。

閉会